



Title	「居住する」華僑：共通性を支えるもの
Author(s)	王, 彩香
Citation	大阪大学言語文化学. 2003, 12, p. 265-277
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/77963
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

「居住する」華僑 ー 共通性を支えるもの ー*

王 彩香**

キーワード：華僑、エスニシティ、ネットワーク

笔者在 1999 年的调查中，虽然发现了日本华侨界分为有几个团体，但都在根底保持着共同独特的民族性，称之「华侨民族性」。

本论文中，笔者为更进一步的调查，调查之「华侨民族性」的范围，而提出的具体考察事项是，住在不同的国家，是否保持共通的「华侨民族性」。

考察之前，笔者对日本、新加坡、美国的华侨们举行了测检。一般是住在不同环境的人，均有不同的民族性，但、依分析的结果，能肯定华侨们虽然是住在异国他乡，然而，却都能保持着共同的「华侨民族性」。

此现象显出，使笔者注意到了网路市场的存在。此市场，可以说是提供居住异国华侨之间的结合作用。

1. はじめに

近年、華僑・華人經濟圏という言葉が頻繁に耳にする。これは、世界に点在する華僑が、共通したエスニシティを媒介として經濟活動を行っているということを物語っている。しかし、現在、華僑の多くは、居住国に住み続け、最初に居住国に住み始めた一世より世代を経て、彼らの子孫は、もうすでに居住国の国籍を取得し、祖国中国よりも、居住国の風俗・習慣に馴染んでいるという者がほとんどである。そのような中で、華僑・華人經濟圏という概念は、果たして本当に措定できるのであろうか。

筆者は日本華僑に対して行ったアンケート分析により、華僑は「華僑エスニシティ」¹⁾という独特なエスニシティを保持しており、それは「祖国中国にある種の郷愁の念を抱き、自分が華僑であることに誇りを持ち、居住国との関係において柔軟に対応できるバランス感覚を保持し、国際感覚に優れている」という特徴を有するエスニシティとして定義している。つまり、共通したエスニシティである「華僑エスニシティ」によって、世界中の華僑は結ばれていくのではないかと推測した。ところが、上で見た「華僑・華

*「居住」異郷の華僑ー支持共同性的媒介ー（王 彩香）

**大阪大学大学院言語文化研究科博士後期課程修了

¹⁾王彩香 2001、PP.54-112

人経済圏」の指定と同じく、この推測の妥当性も、いま疑わなければならない。そこで、本稿の目的を、華僑が国境を越えても、共通したエスニシティを持つのかどうかを検証することとする。

検証の方法として、まず、諸外国に住む華僑の意識を調査する。その際の対象を、華僑が比較的多く在留しているシンガポール、アメリカの華僑とする²⁾。そして、そこで得られた結果を、日本華僑の意識と比較検討する。それらの分析を経て、もし彼らの間に共通するエスニシティが見られるとするなら、さらに、華僑の現状をかえりみながら、その理由をも考察したい。

2. 華僑が居住する国—日本、アメリカ、シンガポール—

それでは最初に、本論における対象国について概観しておきたい。まず、これら3ヶ国はともに華僑がすでに居住して久しいというところに共通点が見出せる。しかし、各々の国で、当然ながらさまざまな環境的違いが見てとれる。そして、エスニシティ形成には一般に、環境が大きく影響すると言われている³⁾。それゆえ、ここで、そうした環境的違いに着目する必要がある。石川（1992）は、そうしたエスニシティ形成に影響を与える環境の例として、「共通の言語、文化、習俗習慣、宗教、歴史、人種的同質性、地域的まとまり、また、同類意識や情緒の一体感の浸透」⁴⁾などを挙げている。他にも、親の教えや学校を含めた教育、現在住む地域での人との交わり、歴史的な経緯、居住国の国際的な地位などを考えることができる。では、それらのものの中から、いくつかを選んで、その違いを比べてみる。

まず、地理的な状況において、アメリカは北アメリカ、シンガポールは東南アジア、日本は東アジアにあるという点で異なっている。同時に、アメリカとシンガポールは、周辺が他の国に囲まれているのに、日本は他国に囲まれない島国であるという特徴がある。中でも、シンガポールの地理的条件は、マレー系諸国に隣接し、大きな外的圧力を受けていることを忘れてはならない。

²⁾ 各国の中国系民族別の人口は、アメリカ約0.4%、シンガポール約77.7%、日本約0.3%となっており、アメリカと日本はその分布が酷使しているため、ここでは、一国の中で中国系民族がマジョリティな存在であるシンガポールと、マイノリティな存在であるアメリカに焦点を当てた。（総務庁統計局編、2000）

³⁾ 本論では、エスニック・アイデンティティを「エスニシティ」の定義とする。アイデンティティは自己の帰属意識であるが、エスニシティは、主として国家体制のもとで一部のマジョリティが共通の文化的指標をよりどころとして高揚する帰属意識と、外部に対して誇示する主体意識を指す。つまり、エスニシティという語を用いることで、国家概念が介入することによって、変化する自己の帰属意識のあり方をここでは問題とする。そのため、本論において、この概念は、既存の民族的な帰属意識に拠る場合ばかりでなく、状況に応じて、国家的、政治的な背景による民族的な意識変化をも含める。

⁴⁾ 石川准、1992、PP.48-49

歴史的に、シンガポールは独立に際して、マレー諸国の迫害を危惧し、自らを「華人」と呼ぶという経緯をたどっている。そのため、人口の上からは「華僑国家」であるが、実際には中国色を押さえ、中国との関係も控えている。そして、中国との国交樹立に際しても、ASEAN 諸国の中で最後に行うと宣言したほど、その軋轢は、シンガポール人の上に圧迫感になっていたと考えられる。しかし、地理的には恵まれた港町であり、中継ぎ貿易港として著しい発展を遂げている。

一方、アメリカは移民の国であり、中国人の移民活動は、カリフォルニア・ゴールドラッシュに始まる。中国人は「苦力」という名で、安い労働力として、金採掘業や地下鉄建設などにかり出されていた。しかし、1960 年を境に、洗濯業、中華レストランなどで、機械化をいち早く導入することで、その地位は飛躍的に向上することとなる。そして、今日のアメリカにおける地位を得た。ウォン・ピーターによると、アメリカ総人口のうち専門職は 17% 足らずといわれている中で、華僑が 30% 以上も占めるという報告がある⁵⁾。

また、日本への移民は、理髪業、中華料理、服の仕立て屋という職業限定のもとに促進された。歴史的に、日本は台湾を植民地化した経緯があるため、日本華僑には台湾人が多いのも特徴的である。

次に構成人員から見ていく。アメリカは移民国家であり、その人種は多種多様である。2000 年の統計では、白人が 82.7%、黒人が 12.7%、アジア系と太平洋系人が 3.7%（その中で中国系は 0.3% を占める）となっている。同時に、シンガポールも中国系 77.7%、マレー人 15%、インド人 7% の多民族国家である。しかし、日本は構成人員のほとんどが日本人であるといわれている。

シンガポール華僑は、政治的に国の中枢に位置しているといわれているのに対して、日本華僑は商業の上でしか成功者が見られない。アメリカ華僑も、石川（1992）の報告で、「日系、中国系、白人、コリア系との間には職業威信分布上の差はほとんどない」⁶⁾といわれているように、知識産業などで成功を収めてはいるが、シンガポールほどではない。

言葉の面では、シンガポールの公用語はマレー語、英語、中国語、タミル語と、中国語の存在があるが、アメリカや日本は、中国語を公用語として認めていない。

居住国との関係においては、3ヶ国ともに華僑は過去に迫害や差別を受けてきた経験を持っているが、いまだに表立って居住国人と比べて様々な制限を受ける国は日本だけである。しかし、その実、山下（1995）の報告では、アメリカでも、華僑はアメリカ経

⁵⁾ ウォン・ピーター、P.26

⁶⁾ 石川准、P.53

済に大きな貢献をしたにもかかわらず、不法移民の増加に従って、マイノリティグループの教育、福祉などに税金が費やされることに対して、居住国民が不満の声を上げているといわれている。そういった意味では、日本もアメリカも居住国人としては受け入れてもらえず、移民という意識が捨て切れない環境にあるといえる。

3. 分析

このように客観的には違いを持つ居住国に住む華僑ではあるが、実際にはどのような思いを抱いているのであろうか。その具体的な思いを見るために、日本華僑、シンガポール華僑、アメリカ華僑に同様のアンケートを実施した。日本では1998年に500人、シンガポールとアメリカは1999年にそれぞれ50人を対象として行った。回答率は各々約70%である。本論は世代の変化による意識の違いを考察の対象としているため、シンガポール華僑・アメリカ華僑は主に10代から20代の3世である大学生を中心にデータを集めている⁷⁾。

資料①のグラフは「貴方が華僑であることを意識するとき」という項目のグラフである。ここで、「いつも意識している」という意見が、意外にも中国系人が7割以上も占めているシンガポールで多くあった。同時に「良い待遇を受けた時」という答えがないところから、居住国で多数派でありながらも、どこかしら遠慮せざるを得ないような思いが見られる。そして、それは「貴方は何人と思うか」(資料③)というアンケートの、「居住国人、つまりシンガポール人」と答えた人が0%というところからも感じられる。同じようにアメリカ華僑を見た場合、アメリカ華僑は「いつも華僑ということ意識している」という人がある反面で、「特に意識しない」という人も多いことがわかる。また、アメリカ華僑の「貴方は何人と思うか」という項目でも、「居住国人」(つまりアメリカ人)と答えた人は少なくなっている。そして、両者ともに「華僑である」という意識は比較的強く、「両国の意識を持つ人」という感覚は多くの人が持ち合わせていると見ることができる。このように、居住国での意識の上での同化はほとんど見られないが、それでも「居住国にいてることについて」という問いに対して、ほとんどの人が現状に満足している様子が窺える。ここで少なくとも両国の華僑は、「自分のルーツは中国にある」と感じている様子が見られる。

次に、彼らは自分たちを中国人と思っているのかという点について考えていく。資料④は「中華民族をどう思うか」という項目のグラフだが、シンガポールも、アメリカも、中国のことを擁護する人たちと擁護しない人たちに分かれる。そして、その割合はほぼ

⁷⁾詳細は資料を参照。なお、本アンケートにおけるシンガポール華僑に対する調査は、拙著1999「シンガポール華僑社会—その深層にあるもの—」と同一のものである。

半々であり、ここで居住国との関係においてバランスよく華僑社会が存在していることがわかる。中国を擁護する人たちの中には祖国への郷愁の念を感じ取ることができるが、擁護しない人たちの中には、中国大陆の中国人とは距離を置いて自分たちを見ている様子が窺える。そしてこれは「台湾・大陸の中国人に対して」(資料⑤)という項目から見ることができる。同時に「貴方の思う華僑とは」という項目からも、自分たちの存在を、良い点からも悪い点からも客観的に見ているバランスの良さを見て取ることができる。つまり、華僑であるということを客観的にとらえ、祖国中国のことを見つめている様子が見られる。そして、このバランス感覚は、「華僑エスニシティ」に当てはまるものである。

更に踏み込んで見ていく。資料④で示した「中華民族をどう思うか」という結果からは、中華民族、そして華僑については肯定的意見と否定的意見の二者にわかれていることがわかったが、「貴方が華僑・華人であることについて」(資料⑦)という項目ではおおむね自らが華僑であることを肯定的に捕らえている様子が見られる。そして、ここからも華僑エスニシティのひとつの要素である「華僑であることに誇りを持つ」という要件に該当することがわかる。同様に、「貴方の思う華僑とは」(資料⑥)という項目でも、自分たち華僑を肯定的にとらえている人が多い。それでも「伝統的な文化を残し続ける人」という意見が多く、「大陸・台湾の中国人と変わらない」という意見が少ないことから、現地の中国人とは別の集団として、自分たちの存在を位置づけている様子が見られる。

また、「貴方にとっての中国語は」(資料⑧)という項目では、シンガポールにおいては、「中国文化習得の手段として必要なもの」という意見がもっとも多く、アメリカでは「アイデンティティとして必要不可欠」という意見がもっとも多く見られた。つまり、アメリカでは、日常で中国語を使う機会が少ないので、中国語習得はアイデンティティ保持のための道具だと考えるのではないかと思える。また、シンガポールでは日常でも中国語が話されるので、シンガポール人としての中国語ではなく、祖国中国の文化を習得することを目的に中国語を学ばせることが重要だと考えているのではないかと思える。

最後に、「不幸にも戦争になったら」(資料⑨)という質問を出したところ、約半数の人が居住国人として行動するという回答を出している。そして残りの約半数の人が、あいまいな答えをしており、中国人として行動するという意見の者は皆無であった。ここからも、意識におけるバランスの良さが窺え、居住国人として定着しつつも、祖国を捨て切れない思いを抱いている者の複雑な心境を見て取ることができる。つまり、実際には、華僑となり、居住国人の一員という意識を持ちながらも、郷愁の思いで見ている祖国中国の影が見出せる。

このように、アンケートを見ていくと、日本華僑に見られた華僑エスニシティは、同様に、アメリカとシンガポール華僑にも備わっていることがわかる。つまり、国を越えても華僑は共通したエスニシティを多かれ少なかれ保持し続けているということを見ることができる。それでは、なぜ、華僑は共通した華僑エスニシティを保持することができるのだろうか。繰り返しになるが、居住国での環境はそれぞれ異なっているのである。

4. 居住する華僑—共通性を支えるもの—

アンケート分析より、華僑は居住国が異なっても共通する「華僑エスニシティ」を有しているということがわかった。しかし、他国での居住が長期に及んでいる現在、なぜ、それでも均一のエスニシティを有することができるのだろうか。

私はそこに「ネットワーク」という概念を提起したいと思う。それは、これらの作業を行うに当たって、アンケートを整理したところ、少数ではあるものの、祖国中国から別の地を経てこれら3カ国のいずれかに移住した華僑の存在が明らかになったことによる。そうした華僑は、香港、マレーシア、マカオ、日本、台湾を経由し、現居住国に来ている。つまり、複数の国を股にかけ、華僑の「ネットワーク」の中で活動しているのである。もちろん、それらはアンケートをとった華僑の中でも少数派である。しかし、それでは、残りの大多数の華僑たちは、国同士のつながりを持たずに、ただひっそりと居住国の中だけで活動を行っているといえるのだろうか。

1991～ 第1回世界華商大会 in シンガポール

30数カ国・地域70数カ都市の華商代表800人余りが参加。華人企業の設立と発展、世界経済に対する海外華人の影響、華人企業精神及びその居留地に対する貢献などの議題をめぐって議論した。

リークアンユー元シンガポール首相が、中華文化の「人間関係」の重視をビジネスに活用することを提唱。

世界へのPR 華人ビジネス情報のコンピュータネットワーク化
全世界華人企業経営者関係のデータベース開発
華人組織の常設機関の設定、提案、実現

1991～ 第2回世界海南郷団聯誼大会 in バンコク

祖先が海南出身であったタイの副首相ブウンチューが「故郷海南のために」と発起。

1991～ 第5回世界鍾姓聯宗大会開催

1992～ 第6回国際潮団聯誼会開催

1992～ 第7回世界謝氏宗親総会 in クアラルンプール

1993～ 第2回世界華商大会 in 香港

1995～ 第3回世界華商大会 in バンコク

24カ国・地域の華商代表58団体1500人余りが参加。全世界の華商間の団結を促進し、タイ中両国の経済貿易の交流を強めることを主な議題とする。

1997～ 第4回世界華商大会 in バンクーバー

1999～ 第5回世界華商大会 in メルボルン

世界中の華人に対する華商の役割、未来の華商リーダーを養成、世界中華人ネットワークにおけるオーストラリアの位置、新世紀における華人倫理、中国における海外華商の合作経営などを主な議題にする。

2001～ 第6回世界華商大会 in 南京

華商の提携する新世紀で、平和・発展・共同なる繁栄を求めることをテーマに、華商代表約5000人が参加。大会は、「科学技術の進歩と経済の発展」「全世界化：チャンスと挑戦」「世界経済に対する華商の貢献と責任」を主な議題とする。

(朝日新聞データベースより検索、筆者が整理)

図1 華商におけるグローバル化の現状

表は、近年に限定をしてではあるが、朝日新聞から世界華商大会を中心に、華僑の国際的な集会についての情報を集めたものである。そこからわかったことは、90年代になってようやく華僑は華僑同士のまとまりを見せ始めたということである。それ以前は、対中国との関係が主であり、対海外華僑との関係はほとんど見られなかった。しかし、90年代に入って見られる動きとして、その内容は、ビジネス上の問題を中心にしてではあるが、華人企業経営者関係のデータベース開発などのように、華僑としてひとつにまとまっていこうとする動きが見られる。また、政治的にも居住国で力を持つ華僑が、華僑共通の文化・伝統とアイデンティティを維持することを提唱し、華僑の団結、情報交換、ビジネスの協力をいっそう促進することを呼びかけている点が印象的である。

その背景には、居住国人になりきれない、言い換えれば、気持ちの上ではいつも移民であるという意識がどこかにあるのではないかと思える。これは、「貴方は何人と思うか」(資料③)という質問項目で、「居住国人」と答えた人が少なかった点、そして、同じく「貴方が華僑として意識するとき」という質問項目で、「差別を受けた時」と答える者がいたのに対して、「良い待遇を受けた時」と答える人がいなかった点(資料①)から推察できる。

移民という存在は居住国において不安定なものである。数年前に起きたインドネシアの暴動の際にも見られたように、長年築き上げてきた富が一夜にしてなくなり、国を追われることも実際に起こりえる出来事である。そうした状態から、経済的な安定、居住国での地位の安定を得ようとすると同時に、何かあったときのために、同じ境遇であり、助け合える仲間である華僑間の繋がりを強くしようと思うことも当然のことである。そして、このような出来事が生じるかも知れないという不安が、華僑同士が結びつこう、結びついて力をより集結しようという原動力になっていると思われる。

図2 サンフランシスコ市のインドシナ系新華僑の団体

団 体 名 称	設 立 年
ヴェトナム華僑互助聯誼会	1976
北カリフォルニア州潮州会館	1980
北カリフォルニア州客属聯誼会	1980
北カリフォルニア州福建会館	1983
サンフランシスコ市欽廉同郷会	1984
八閩同郷聯誼会	1990
北カリフォルニア州海南同郷会	1992
インドシナ華僑聯誼会	不明
ビルマ華僑聯誼会	不明
アメリカ東南アジア工商会	不明
北カリフォルニア州ヴェトナム・カンボジア・ラオス華裔協会	不明

(五十嵐武士編、p.28 より)

図3 第7期「国際潮団聯誼年会」参加団体

団 体 名 称	参加者数	団 体 名 称	参加者数
香港潮州会館	75	デンマーク潮州同郷会	—
マカオ潮州同郷会	46	ドイツ潮州同郷会	18
中華全国帰国華僑聯合会慶賀団	2	英国ロンドン市潮州同郷会	3
広東省汕頭市慶賀団	5	カナダオンタリオ州同郷会	47
広東省汕頭市慶賀団	4	カナダバンクーバー市潮州同郷会	48
天津市潮汕聯郷会慶賀団	2	カナダカルガリー市潮州同郷会	22
上海市潮汕聯郷会慶賀団	1	カナダエドモントン市潮州同郷会	8
タイ潮州会館	79	カナダケベック州潮州同郷会	9
マレーシア潮州公会聯合会	83	カナダマニトバ州潮州同郷会	8
シンガポール八邑会館	42	サイパン島潮州代表团	4
インドネシア潮州同郷会	44	ニューヨーク州潮州同郷会	24
フィリピン潮汕聯郷会	3	サンノゼ市潮州会館	59
カンボジア潮州会館	20	北カリフォルニア州潮州会館	42
オーストラリア潮州同郷会	34	南カリフォルニア州潮州会館	150
オーストラリアヴィクトリア州潮州同郷会	5	オレゴン州潮州同郷会	13
フランス潮州会館	55	アメリカ南部潮州同郷会	29
フランス華裔互助会	14	ジョージア州潮州同郷会	7
ベルギー潮州同郷会	7	ワシントン州潮州同郷会	32
オランダ潮州同郷会	15	シカゴ市潮州同郷会	21
スイス潮州同郷会	8	ハワイ潮州同郷会	23

参加者総数 1,118

(五十嵐武士編、p.28 より)

もちろん、図3のような活動は、華僑総会などの代表レベルでの活動ではあるが、華僑の生活がいまだ華僑総会に密着していることを考えれば、個人レベルでの結びつきもまた促進される方向に動いているということができよう。同時に、図2に見られるようにサンフランシスコという小さな範囲でも、事実上、海外華僑とのネットワークは出現している。

また、別の動きとしても、90年代以降に海外華僑が、華僑向けの中国語の新聞を発行したことが伝えられている⁸⁾。同時に、華僑向けのテレビ情報「華人CNN」などの番組が、香港から24時間発信されていることも伝えられている。このように、海外華僑を「華僑」としてひとつにくくる動きがそこかしこにみられる。そして、事実、華僑同士は国を越えて連携し始めている。たとえば、2000年の5月7日のSouth China Morning Post紙、香港Standard紙、IT Dailyの各紙では、「香港のPCCW社が台湾のマルチメディア大手ERAコミュニケーションズ社、インターネット会社のGigamedia（ギガメディア）社、台湾の華人財閥Koo'Sグループの4社と連合を組んでジョイント・アドベンチャーという新会社を設立した」ことを発表している。そして、各紙の中で、この事件は、華僑財閥同士が国を越えて手を組むという華僑ビジネスの新しい形であると謳われている。新会社は広東語、北京語、英語の3カ国語で業務を開始し、注目されるそのコンテンツの制作国は、香港、台湾、中国、ロンドン、オーストラリア、日本だと言われている。それら新会社の参入によって、これらいくつかの国の華僑が、何らかの形で、さらに新たに結びついていくことも予測できる。

このように、華僑の経済界では、すでに様々な方向から華僑がひとつに結びつこうとしている。これらの現況をかえりみた時、華僑が国を越えても共通したエスニシティを持つ理由は、このように、華僑ネットワークを形成しようという原動力があるからではないかと思える。そして、今までは中国を模倣して均一な社会を構成してきた華僑社会も、今後は、華僑自体が内発的に結びつくことで、華僑として均一な社会が構成され始めているのではないかと思うのである。

5. おわりに

アンケート分析により、ひとまずではあるが、複数国の華僑間に「華僑エスニシティ」の存在を確認することができた。そして、それは、異なった環境に居住しながらも現れる共通したエスニシティであることが確認できた。同時に、インターネットをはじめとするメディアの力が、中国語という媒介を使って、新たな華僑経済圏を生み出すものと

⁸⁾ 天児慧編、1998、PP.26-73

なっていることも見て取ることができた。

そして、ここから、今までは、他国に居住することで作られてきた華僑社会ではあったが、今後は、居住国に拠点を置きながら、メディアの力を使って、いっそう全世界的規模で活動をするのではないかと考えることもできる。

本論の調査は、世代を経て居住国に生まれ育った若者に焦点を当てている。また、彼らが大学生ということもあり、考え方にも偏りが少ないと考えられる。しかし、回答者の数が少ないこと、一部の地域の学生による回答であるということ、若い世代を構成しているのは大学生だけではないということなどから、本論は一考察に過ぎない。今後は、さらに、調査対象者を増やす必要がある。また、華僑の意識に深く迫るため、インタビューなどを通じて、さらに具体的な生活の側面を把握する必要がある。そして、華僑同士の結びつきも、今後さらに増えてくることが予想される。こうした事態の追跡調査を今後の課題として、いっそう研究を進めていきたい。

6. 主要参考文献

天児慧編（1998）『アジアの21世紀』紀伊国屋書店

五十嵐武士編（2000）『アメリカの多民族体制』東京大学出版会

石川准（1992）『アイデンティティ・ゲーム』、新評論

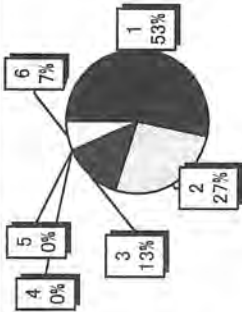
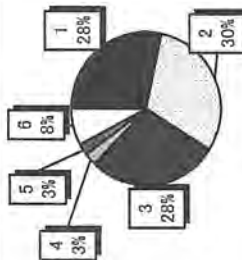
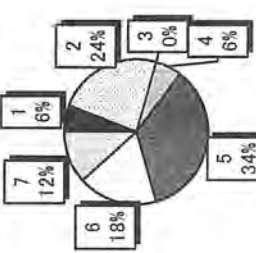
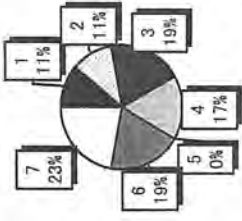
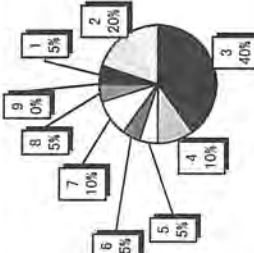
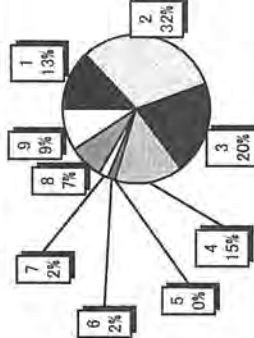
総務庁統計局編『世界の統計』2000

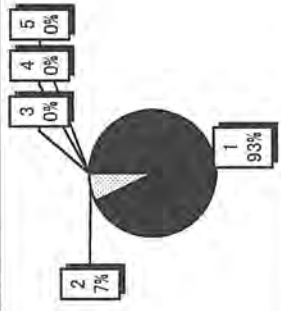
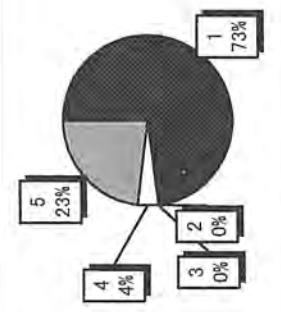
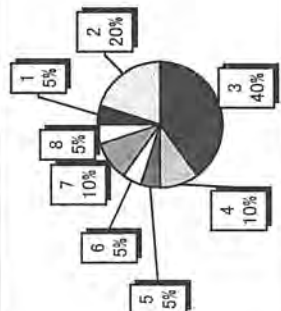
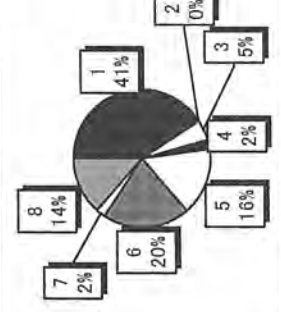
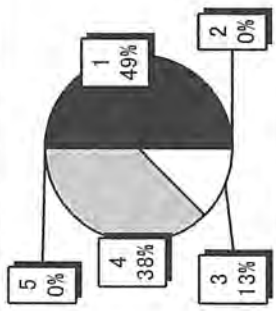
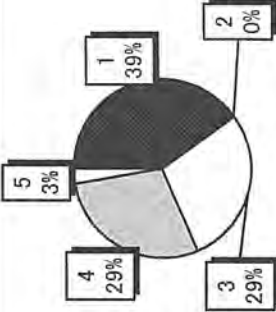
王彩香（2001）「華僑社会に見られる意識の多重構造」、愛知大学中国 21

王彩香（2001）「シンガポール華僑社会ーその深層にあるものー」、大阪大学言語文化学
ウォン・ピーター、芳賀健一・矢野裕子訳（1990）『チャイナタウン・イン・ニューヨーク』同文館

資料

問	シンガポール		アメリカ																																
① 意識する時 貴方が華僑であることを	<table><tr><th>Category</th><th>Percentage</th></tr><tr><td>1. 何も意識していない</td><td>51%</td></tr><tr><td>2. パスポートを作る時</td><td>0%</td></tr><tr><td>3. 自分の名前を書く時</td><td>6%</td></tr><tr><td>4. 差別を受けた時</td><td>6%</td></tr><tr><td>5. 良い待遇を受けた時</td><td>0%</td></tr><tr><td>6. 特に意識しない</td><td>31%</td></tr><tr><td>7. その他</td><td>6%</td></tr></table>	Category	Percentage	1. 何も意識していない	51%	2. パスポートを作る時	0%	3. 自分の名前を書く時	6%	4. 差別を受けた時	6%	5. 良い待遇を受けた時	0%	6. 特に意識しない	31%	7. その他	6%	1. 何も意識していない 2. パスポートを作る時 3. 自分の名前を書く時 4. 差別を受けた時 5. 良い待遇を受けた時 6. 特に意識しない 7. その他	<table><tr><th>Category</th><th>Percentage</th></tr><tr><td>1. 何も意識していない</td><td>26%</td></tr><tr><td>2. パスポートを作る時</td><td>4%</td></tr><tr><td>3. 自分の名前を書く時</td><td>4%</td></tr><tr><td>4. 差別を受けた時</td><td>7%</td></tr><tr><td>5. 良い待遇を受けた時</td><td>0%</td></tr><tr><td>6. 特に意識しない</td><td>37%</td></tr><tr><td>7. その他</td><td>22%</td></tr></table>	Category	Percentage	1. 何も意識していない	26%	2. パスポートを作る時	4%	3. 自分の名前を書く時	4%	4. 差別を受けた時	7%	5. 良い待遇を受けた時	0%	6. 特に意識しない	37%	7. その他	22%
Category	Percentage																																		
1. 何も意識していない	51%																																		
2. パスポートを作る時	0%																																		
3. 自分の名前を書く時	6%																																		
4. 差別を受けた時	6%																																		
5. 良い待遇を受けた時	0%																																		
6. 特に意識しない	31%																																		
7. その他	6%																																		
Category	Percentage																																		
1. 何も意識していない	26%																																		
2. パスポートを作る時	4%																																		
3. 自分の名前を書く時	4%																																		
4. 差別を受けた時	7%																																		
5. 良い待遇を受けた時	0%																																		
6. 特に意識しない	37%																																		
7. その他	22%																																		
② 居住国にいることについて	<table><tr><th>Category</th><th>Percentage</th></tr><tr><td>1. 非常に幸福に思う</td><td>87%</td></tr><tr><td>2. いくらか幸福に思う</td><td>13%</td></tr><tr><td>3. そうは思わない</td><td>0%</td></tr><tr><td>4. 中国にいる方が幸福だと思う</td><td>0%</td></tr><tr><td>5. その他</td><td>0%</td></tr></table>	Category	Percentage	1. 非常に幸福に思う	87%	2. いくらか幸福に思う	13%	3. そうは思わない	0%	4. 中国にいる方が幸福だと思う	0%	5. その他	0%	1. 非常に幸福に思う 2. いくらか幸福に思う 3. そうは思わない 4. 中国にいる方が幸福だと思う 5. その他	<table><tr><th>Category</th><th>Percentage</th></tr><tr><td>1. 非常に幸福に思う</td><td>97%</td></tr><tr><td>2. いくらか幸福に思う</td><td>3%</td></tr><tr><td>3. そうは思わない</td><td>0%</td></tr><tr><td>4. 中国にいる方が幸福だと思う</td><td>0%</td></tr><tr><td>5. その他</td><td>0%</td></tr></table>	Category	Percentage	1. 非常に幸福に思う	97%	2. いくらか幸福に思う	3%	3. そうは思わない	0%	4. 中国にいる方が幸福だと思う	0%	5. その他	0%								
Category	Percentage																																		
1. 非常に幸福に思う	87%																																		
2. いくらか幸福に思う	13%																																		
3. そうは思わない	0%																																		
4. 中国にいる方が幸福だと思う	0%																																		
5. その他	0%																																		
Category	Percentage																																		
1. 非常に幸福に思う	97%																																		
2. いくらか幸福に思う	3%																																		
3. そうは思わない	0%																																		
4. 中国にいる方が幸福だと思う	0%																																		
5. その他	0%																																		
③ 貴方は何人と思うか	<table><tr><th>Category</th><th>Percentage</th></tr><tr><td>1. 中国人</td><td>18%</td></tr><tr><td>2. 華僑</td><td>46%</td></tr><tr><td>3. 居住国人</td><td>0%</td></tr><tr><td>4. 中国人でもあり、居住国人でもある (どちらかというと中国人に近い)</td><td>18%</td></tr><tr><td>5. 中国人であり居住国人である (どちらかというと居住国人に近い)</td><td>0%</td></tr><tr><td>6. よくわからない</td><td>12%</td></tr><tr><td>7. その他</td><td>6%</td></tr></table>	Category	Percentage	1. 中国人	18%	2. 華僑	46%	3. 居住国人	0%	4. 中国人でもあり、居住国人でもある (どちらかというと中国人に近い)	18%	5. 中国人であり居住国人である (どちらかというと居住国人に近い)	0%	6. よくわからない	12%	7. その他	6%	1. 中国人 2. 華僑 3. 居住国人 4. 中国人でもあり、居住国人でもある (どちらかというと中国人に近い) 5. 中国人であり居住国人である (どちらかというと居住国人に近い) 6. よくわからない 7. その他	<table><tr><th>Category</th><th>Percentage</th></tr><tr><td>1. 中国人</td><td>26%</td></tr><tr><td>2. 華僑</td><td>21%</td></tr><tr><td>3. 居住国人</td><td>3%</td></tr><tr><td>4. 中国人でもあり、居住国人でもある (どちらかというと中国人に近い)</td><td>18%</td></tr><tr><td>5. 中国人であり居住国人である (どちらかというと居住国人に近い)</td><td>26%</td></tr><tr><td>6. よくわからない</td><td>0%</td></tr><tr><td>7. その他</td><td>6%</td></tr></table>	Category	Percentage	1. 中国人	26%	2. 華僑	21%	3. 居住国人	3%	4. 中国人でもあり、居住国人でもある (どちらかというと中国人に近い)	18%	5. 中国人であり居住国人である (どちらかというと居住国人に近い)	26%	6. よくわからない	0%	7. その他	6%
Category	Percentage																																		
1. 中国人	18%																																		
2. 華僑	46%																																		
3. 居住国人	0%																																		
4. 中国人でもあり、居住国人でもある (どちらかというと中国人に近い)	18%																																		
5. 中国人であり居住国人である (どちらかというと居住国人に近い)	0%																																		
6. よくわからない	12%																																		
7. その他	6%																																		
Category	Percentage																																		
1. 中国人	26%																																		
2. 華僑	21%																																		
3. 居住国人	3%																																		
4. 中国人でもあり、居住国人でもある (どちらかというと中国人に近い)	18%																																		
5. 中国人であり居住国人である (どちらかというと居住国人に近い)	26%																																		
6. よくわからない	0%																																		
7. その他	6%																																		

問	シンガポール		アメリカ
④ 中華民族をどう思うか		1. 世界に冠たる文化を誇る優秀な民族である 2. まとまりのない民族である 3. 中華思想にうぬぼれ、いつの間にか後進国になった 4. 大陸・台湾の中華民族は21世紀をリードしていく役割を担う 5. 中華民族の中でも華僑は21世紀をリードしていく役割を担う 6. その他	
⑤ 対して 台湾・大陸の中国人に		1. ペラペラ流暢な中国語で話しかけてくるので対応に困る時が多い 2. 考え方が随分異なるので付き合いづらい 3. きわめてスムーズにつき合える 4. ほどよくつき合える 5. 本場の中国人を目前にして、自分とほど遠いと感じる 6. 自分もやはり同じ中国人だなと感じる 7. その他	
⑥ 貴方の思う華僑とは		1. 商売が上手な人達 2. 昔の苦しみを忘れず努力し続ける人達 3. 清朝等の伝統的な文化を残し続ける人達 4. 金儲けしか興味のない人達 5. 二つの国の狭間に挟まれて苦勞する人達 6. 大陸・台湾の中国人と変わらない 7. 居住国人と変わらない 8. 居住国の民族の一集団に過ぎない 9. その他	

⑦ 貴方について ① 貴方は華僑・華人である	 <table><tr><th>Option</th><th>Percentage</th></tr><tr><td>1</td><td>93%</td></tr><tr><td>2</td><td>7%</td></tr><tr><td>3</td><td>0%</td></tr><tr><td>4</td><td>0%</td></tr><tr><td>5</td><td>0%</td></tr></table>	Option	Percentage	1	93%	2	7%	3	0%	4	0%	5	0%	1. 華僑でうれしい。誇らしい 2. 二つの国に挟まれてはつきりしない あまりうれしくはない 3. いっそのこと大陸・台湾生まれだったらよかった 4. いっそのこと居住国生まれの居住国人だったらよかった 5. その他	 <table><tr><th>Option</th><th>Percentage</th></tr><tr><td>1</td><td>73%</td></tr><tr><td>2</td><td>0%</td></tr><tr><td>3</td><td>0%</td></tr><tr><td>4</td><td>4%</td></tr><tr><td>5</td><td>23%</td></tr><tr><td>6</td><td>0%</td></tr></table>	Option	Percentage	1	73%	2	0%	3	0%	4	4%	5	23%	6	0%										
Option	Percentage																																						
1	93%																																						
2	7%																																						
3	0%																																						
4	0%																																						
5	0%																																						
Option	Percentage																																						
1	73%																																						
2	0%																																						
3	0%																																						
4	4%																																						
5	23%																																						
6	0%																																						
⑧ 貴方にとっての中国語とは	 <table><tr><th>Option</th><th>Percentage</th></tr><tr><td>1</td><td>5%</td></tr><tr><td>2</td><td>20%</td></tr><tr><td>3</td><td>40%</td></tr><tr><td>4</td><td>10%</td></tr><tr><td>5</td><td>5%</td></tr><tr><td>6</td><td>5%</td></tr><tr><td>7</td><td>10%</td></tr><tr><td>8</td><td>10%</td></tr></table>	Option	Percentage	1	5%	2	20%	3	40%	4	10%	5	5%	6	5%	7	10%	8	10%	1. アイデンティティとして必要不可欠の要件 2. 現在の仕事、事業、商売などで必要なもの 3. 中国文化習得の手段として必要なもの 4. 世界人口の5分の1が話している国際語 5. 両親親族家族などとのコミュニケーションの手段として必要な道具 6. 世界の華僑同士を繋げる重要なもの 7. 何も役立っていない 8. その他	 <table><tr><th>Option</th><th>Percentage</th></tr><tr><td>1</td><td>41%</td></tr><tr><td>2</td><td>0%</td></tr><tr><td>3</td><td>5%</td></tr><tr><td>4</td><td>2%</td></tr><tr><td>5</td><td>16%</td></tr><tr><td>6</td><td>20%</td></tr><tr><td>7</td><td>2%</td></tr><tr><td>8</td><td>14%</td></tr></table>	Option	Percentage	1	41%	2	0%	3	5%	4	2%	5	16%	6	20%	7	2%	8	14%
Option	Percentage																																						
1	5%																																						
2	20%																																						
3	40%																																						
4	10%																																						
5	5%																																						
6	5%																																						
7	10%																																						
8	10%																																						
Option	Percentage																																						
1	41%																																						
2	0%																																						
3	5%																																						
4	2%																																						
5	16%																																						
6	20%																																						
7	2%																																						
8	14%																																						
⑨ 不幸にも戦争になったら	 <table><tr><th>Option</th><th>Percentage</th></tr><tr><td>1</td><td>49%</td></tr><tr><td>2</td><td>0%</td></tr><tr><td>3</td><td>13%</td></tr><tr><td>4</td><td>38%</td></tr><tr><td>5</td><td>0%</td></tr><tr><td>6</td><td>0%</td></tr></table>	Option	Percentage	1	49%	2	0%	3	13%	4	38%	5	0%	6	0%	1. 居住国人として行動する 2. 中国人として行動する 3. わからない 4. 戦争は起こらないと思うので答えられない 5. その他	 <table><tr><th>Option</th><th>Percentage</th></tr><tr><td>1</td><td>39%</td></tr><tr><td>2</td><td>0%</td></tr><tr><td>3</td><td>29%</td></tr><tr><td>4</td><td>29%</td></tr><tr><td>5</td><td>3%</td></tr><tr><td>6</td><td>0%</td></tr></table>	Option	Percentage	1	39%	2	0%	3	29%	4	29%	5	3%	6	0%								
Option	Percentage																																						
1	49%																																						
2	0%																																						
3	13%																																						
4	38%																																						
5	0%																																						
6	0%																																						
Option	Percentage																																						
1	39%																																						
2	0%																																						
3	29%																																						
4	29%																																						
5	3%																																						
6	0%																																						